NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞を使った人権総合学習

2．学校名

大阪市立生江小学校

3．実践者名（代表者名）

細見俊夫

4．学年

第6学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間　　32人

6．単元（本時の学習課題）名

ヒロシマ修学旅行にむけて

7．目標(狙い)

ヒロシマ修学旅行を前に、新聞を材料にして、原爆投下そして戦争とはいったい何だったのか、また、人々の心に何が残ったのかを考える。

8．評価の視点

新聞記事や社説などから、戦争や原爆に関する事柄を見つけることができたか。また、それらをもとに、自分なりの考えを持つことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「ヒロシマ、原爆について調べよう」4時間
「戦争について考えよう」4時間　　合計8時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①8月6日の新聞から、ヒロシマや原爆に関する記事を見つける。(1時間)
②記事の内容を読み取り、知ったこと、気づいたことをまとめる。(3時間)
③8月15日の新聞から、戦争についての記事や社説を見つける。(1時間)
④記事や社説の内容を読み取り、それらに対する自分なりの考えをまとめる。(3時間)

（留意点）
・客観的事実、その当時を知る人々の思い、論評に分けて、見つけたりまとめたりして、それらを混同しないようにする。
・難解な語句や言葉の意味調べに終始することのないよう、写真や図などの素材を生かすようにする。
・各社の新聞を扱い、偏った考えにならないように留意する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

予想はしていたが、習っていない漢字、難しい言葉を見ただけで、「むずかしいなぁ」と感じている様子が見られた。指導者が、かなり支援をすることで、なんとか次への意欲をつなぐことができた。そんな中で、戦争を体験した人々の思いに寄り添って、自分なりの考えを持つ児童が多かった。

12．成果と課題

新聞記事の中でも、「人々の思い」という感性に響く教材によって、これまでにない学びがあった。そのためにも、まずは、計画的に、「新聞に慣れ親しむ」という基本的な経験を重ねさせたい。